

都道府県別の平成 24 年産水稻の生産事情

大臣官房統計部

平成 24 年 3 月 16 日

農林水産省

本資料のうち、都道府県別の「図 6 品種別作付割合の動向」については、平成21年産までは、同年産をもって終了した「水稻うるち米の品種別作付状況」（農林水産省総合食料局）の結果を使用し、平成22年産以降は種子の配布数量からの推計値を基本に、各都道府県の関係機関からの情報等に基づき推定したものである。

したがって、それぞれのデータは正確に連続するものでないことに留意願いたい。

都道府県別の平成24年産水稻の生産事情

	生産事情	
	品種構成等	栽培技術指導方針
北海道	○「ななつぼし」、「きらら397」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 良質・良食味米の安定生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 育苗管理の徹底 ・ 畦畔整備やほ場の透水性改善等の栽培環境整備 ・ 適正施肥
青森	○「つがるロマン」、「まっしぐら」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 良質・良食味米の安定生産（気象に左右されない米づくり）に向け、以下の指導が行われている。 ・ 健苗育成と適期移植 ・ 畦畔の整備、補強と適正な水管理 ・ 土作りの推進と適正な施肥
岩手	○「ひとめぼれ」、「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 良質・良食味米の安定生産及び低温障害回避のため、適期移植 ○ 環境への負荷を抑えるため、慣行栽培よりも農薬使用回数の低減、堆肥等の有機物投入の土作り、基本技術の励行の指導が行われている。
宮城	○「ひとめぼれ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 良質・良食味米の安定生産（気象変動に強い米づくり）に向け、以下の指導が行われている。 ・ 作型の改善（出穂期を遅らせる作型） ・ 土づくりの推進と適正な施肥 ・ 適正な水管理と病虫害防除等
秋田	○「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 生育・栄養診断に基づく肥培管理 ○ 低温に遭遇する危険性や高温登熟における品質低下を回避するための安全作期内的における適期移植等の指導が行われている。
山形	○「はえぬき」、「ひとめぼれ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 気象変動に対応した品質向上技術（水管理、適期移植）の指導 ○ 土壌診断に基づくリン酸、カリ等の適量施肥等の指導が行われている。
福島	○「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 適地適作に加え、適期移植や、適正な水管理等の指導が行われている。
茨城	○「コシヒカリ」、「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 良質米の安定生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適期移植 ・ 適期・適切な中干しによる茎数管理 ・ 適期収穫
栃木	○「コシヒカリ」、「あさひの夢」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 品質や食味の向上に向け、以下の指導が行われている。 ・ 水管理の徹底 ・ 生育診断に基づく適正な肥培管理 ・ 適期収穫
群馬	○「あさひの夢」、「ゴロピカリ」、「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 品種特性に対応した適期移植 ○ 適期・適量施肥 ○ 生育・気象の推移に応じた水管理 ○ 夏場の高温対策として、高温登熟の回避・高温に強い稲体づくりなどの徹底等の指導が行われている。
埼玉	○ 品種構成は「コシヒカリ」、「彩のかがやき」、「キヌヒカリ」が中心であるが、近年、「朝の光」に比べ収量水準の低い「コシヒカリ」、「彩のみのり」の作付割合が上昇している。（資料No. 6 参照）	○ 品質・食味向上に向け、以下の指導が行われている。 ・ 栽培管理技術の徹底 ・ 栽培基準や栽培指針に準じた肥培管理（資料No. 6 参照）
千葉	○「コシヒカリ」、「ふさこがね」、「ふさおとめ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 土作りの推進と適正な施肥・水管理の徹底 ○ 適期収穫と適正な乾燥・調製の徹底等を重点的に指導が行われている。

都道府県別の平成24年産水稻の生産事情

	生産事情	
	品種構成等	栽培技術指導方針
東京	○「キヌヒカリ」、「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 良質米生産に向け、農業改良普及センターによる施肥の指導が行われている。
神奈川	○ 品種構成は、「キヌヒカリ」が中心であるが、近年、収量水準が高い「さとじまん」の作付割合が上昇している。（資料No. 6 参照）	○ 良質・良食味米の生産に向け、適期施肥等の指導が行われている（資料No. 6 参照）。
新潟	○「コシヒカリ」、「こしいぶき」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 良質・良食味米生産推進のため、以下の指導が行われている。 ・ 土作りによる気象変動に強い稲づくり ・ 適正生育量の確保と過剰生育の防止 ・ 適正な穂肥、水管理 ・ 適期刈取りと適正な乾燥・調製
富山	○ 品種構成は「コシヒカリ」が中心であるが、近年、「コシヒカリ」に比べ収量水準が高い「てんこもり」が増加する傾向にある。（資料No. 6 参照）	○ 土壌診断に基づく土作り ○ 高温登熟を回避するため、以下の指導が行われている。 ・ 「コシヒカリ」の適期田植えの実施 ・ 適期・適切な中干しの徹底 ・ 穂肥の適期・適量施肥（資料No. 6 参照）
石川	○「コシヒカリ」、「ゆめみづほ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 良質・良食味米生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 緩効性肥料の普及 ・ 過繁茂を回避するため基肥量の見直し ・ 適正茎数の確保
福井	○「コシヒカリ」、「ハナエチゼン」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 土作りと適切な水管理の徹底 ○ 高温登熟回避による品質向上を図るため、適期移植・直播栽培等の指導が行われている。
山梨	○「コシヒカリ」、「あさひの夢」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 高温による品質低下防止のため、以下の指導が行われている。 ・ 適期播種、適期移植 ・ 適正な水管理 ・ 適期収穫
長野	○「コシヒカリ」、「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 高温登熟障害（胴割米、白未熟米）防止のため、以下の指導が行われている。 ・ 適期移植 ・ 適切な水管理 ・ 適期収穫と的確な乾燥調製の実施
岐阜	○「ハツシモ」、「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 温暖化傾向に対応するため以下の指導が行われている。 ・ 移植期の後進化 ・ 疎植栽培の普及 ・ 適正な水管理 ・ 適期収穫
静岡	○「コシヒカリ」、「あいちのかおり」、「キヌヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 良質・良食味米生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 穂肥の適期適量施肥 ・ 適期防除 ・ 適期刈取り
愛知	○「あいちのかおり」、「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 良質米生産に向けて、施肥改善と基本技術の励行 ○ 過剰な生育を抑制するため、適正な栽植密度の確保等の指導が行われている。
三重	○「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 白未熟粒対策や良質米の生産推進のため、品種に応じた適期・適量施肥等の指導が行われている。

都道府県別の平成24年産水稻の生産事情

	生 産 事 情	
	品種構成等	栽培技術指導方針
滋 賀	○「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」、「日本晴」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 良質米生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 初期の過繁茂抑制 ・ もみ数過多の抑制 ・ 登熟期の高温回避
京 都	○「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」、「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 良質米生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 緩効性肥料の施用 ・ 適期移植 ・ 疎植栽培
大 阪	○「ヒノヒカリ」、「キヌヒカリ」、「きぬむすめ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 品種別、地域別に適期移植、合理的施肥等の指導が行われている。
兵 庫	○「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」、「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 良質米生産に向け、品種別に以下の指導が行われている。 ・ 適期移植 ・ 適期・適量施肥
奈 良	○「ヒノヒカリ」、「ひとめぼれ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 品質向上といもち病回避のため、減肥栽培の指導が行われている。
和 歌 山	○「キヌヒカリ」、「イクヒカリ」、「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 良質米生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適期移植 ・ 適量施肥 ・ 適正な水管理
鳥 取	○「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 良質米生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 土づくりの徹底 ・ 施肥の改善 ・ 適正な水管理 ・ 病虫害防除等
島 根	○「コシヒカリ」、「きぬむすめ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 良質・良食味米の安定生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 健苗の育成 ・ 適期移植 ・ 適正な肥培管理
岡 山	○「ヒノヒカリ」、「アケボノ」、「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 品種・生育に応じた適量施肥 ○ 根腐れ防止のための適正な水管理等の指導が行われている。
広 島	○「コシヒカリ」、「ヒノヒカリ」、「あきろまん」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 肥培管理、水管理等基本管理技術の高位平準化により外観品質向上を目指している。 ○ 需要動向を踏まえた売れる米作りに対応し、実需者ニーズに対応する品種の作付けによる産地の育成を図っている。
山 口	○「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」、「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 登熟期の高温障害を回避するため以下の指導が行われている。 ・ 品種特性に応じた栽植密度の確保 ・ 水管理の徹底 ・ 気象条件にあった施肥管理
徳 島	○「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 食味の向上、倒伏による品質低下防止のため、適期・適量施肥等の指導が行われている。
香 川	○「ヒノヒカリ」、「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 良質米生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適正な水管理 ・ 適期移植 ・ 適量施肥

都道府県別の平成24年産水稻の生産事情

	生産事情	
	品種構成等	栽培技術指導方針
愛媛	○「ヒノヒカリ」、「コシヒカリ」、「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 品質向上に向け、以下の指導が行われている。 ・ 疎植栽培 ・ 移植時期の後進化 ・ 適正な水管理
高知	○「コシヒカリ」、「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 品質向上に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適正な肥培管理 ・ 適期防除 ・ 適期刈取り ・ 疎植栽培（早期栽培）、移植時期の後進化（普通期栽培）
福岡	○「ヒノヒカリ」、「夢つくし」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 品質向上に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適期移植 ・ 中干し・間断灌水・落水時期の適正化 ・ 土壌診断・施肥基準に基づく適正な施肥
佐賀	○「ヒヨクモチ」、「夢しずく」、「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に変化はない。	○ 品質向上に向け、以下の指導が行われている。 ・ 品種特性に応じた播種・移植時期の徹底 ・ 生育ステージに応じた施肥管理、水管理（適正な中干しの実施、早期落水の防止）
長崎	○ 品種構成は「ヒノヒカリ」が中心であるが、近年、「ヒノヒカリ」に比べ、収量水準の高い「にこまる」の作付割合が上昇している。（資料No. 6 参照）	○ 品質に加え、食味に重点をおいた栽培指導（適切な肥培管理等） ○ 温暖化の進行に対応するための遅植えの指導が行われている（資料No. 6 参照）。
熊本	○「ヒノヒカリ」、「コシヒカリ」、「森のくまさん」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 品質向上に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適期移植 ・ 高温時の間断灌水 ・ カメムシの防除 ・ 土壌改良資材の投入
大分	○「ヒノヒカリ」、「ひとめぼれ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 品質向上に向けた移植時期の適正化 ○ 生育診断に基づいた適量施肥 ○ 適切な水管理（中干し、間断灌水）の実施等の指導が行われている。
宮崎	○「ヒノヒカリ」、「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 適正な栽植密度の確保 ○ 移植時期の後進化 ○ 土壌診断に基づく適正施肥等の指導が行われている。
鹿児島	○ 品種構成は「ヒノヒカリ」、「コシヒカリ」が中心であるが、近年、「ヒノヒカリ」に比べ収量水準の高い「あきほなみ」等の作付割合が上昇している。（資料No. 6 参照）	○ 高品質米の生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適正な栽植密度の確保 ・ 適正な施肥、水管理（資料No. 6 参照）
沖縄	○「ひとめぼれ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ J A・普及センター等による肥培管理・防除等の指導を共同で実施している。